



# 帰国生の学校選び A to Z

●第12回●

共学のみでなく、男子校や女子校も  
視野に入れた学校選択を

私はデトロイト補習授業校にて進路指導も担当していますが、進路相談の際に希望校を確認すると、多くの方が共学校を選択されます。実際、首都圏や京阪神の私立校希望の場合には、女子校や男子校もありますが、その他の地区の学校、特に公立高校においては共学校が目立ちますので当然でしょう。しかし、栃木県、群馬県、埼玉県では、男子校や女子校も多数存在しますし、山形県や茨城県には男女共学でありながら、男子生徒のみとか女子生徒のみという学校もあります。

日本では明治以降男女別学が主流でしたが、1947年に学校教育基本法が交付されてからは、国公立校を中心に男女共学が原則になっています。また、近年では中学校の技術家庭科や保健体育などの男女共修や男女混合名簿の導入など、男女平等の動きが浸透しつつあります。そういう意味で男女共学が当然のような意識も見られるのですが、男子校や女子校の魅力も十分に理解した上で、学校選択をするのが望ましいでしょう。

男子校や女子校を選択する理由として、伝統がある、校風が気に入っている、進学実績が優れている、ユニークなカリキュラムがある、部活動の実績の高さなどが挙げられます。つまり、他校にはない特色が評価されています。たとえば、文京学院大学女子中学校・高等学校では、「国際塾」、「科学塾」というスクール・イン・スクールのプログラムを設けて、英語や理科教育の充実を図っています。その成果で英国の名門大学や早稲田大国際教養学部への進学実績が生まれ、また、文科省より「SSH（スーパー・サイエンス・ハイスクール）」に指定されています。

学校選びについては、受験情報誌、学校のウェブサイトや学校説明会などを活用し、各校の特色を十分に調べることをお勧めします。各校の様子は保護者の時代とは変わっていますので、最新情報をキャッチしましょう。



執筆者：丹羽 隼人  
文京学院大学女子中学校 高等学校 北米事務所アドバイザー

河合塾での指導経験を経て、米国では補習校・学習塾で帰国生入試受験生を指導。現在はデトロイト補習校講師。代表を務める「米日教育交流協議会」では、日本語・日本文化体験「サマーキャンプ in ぎふ」を実施。他に、河合塾北米事務所・アドバイザー。お問い合わせ先：E-mail [bunkyo@ujeec.org](mailto:bunkyo@ujeec.org) / Phone & Fax 1-855-926-1140